

3 取組紹介

成果の見られた学校や教育委員会は何をしたのか？

これまでみてきたとおり、時代の変革期にあり、また、学びの在り方自体も大きな転換期にある中、本県における教育実践も、今一度、「そもそも論」や「観」の部分から問い直していく必要があります。しかし、自身の価値観や考え方をアップデートしたり、これまで受けたり行ってきたりする教育実践を変えることは、違和感や、ときには恐怖すら感じることもあるかもしれません。そうした変革期にあるときこそ、良い取組を共有し合い、また、共に語り合う「教え合い・学び合い」の考え方が重要になるのではないのでしょうか。各学校や各教育委員会では、様々な試行錯誤が繰り返されていることと思いますが、そうした中、本県においても、着実に、新たな実践が生まれ始めています。そこで、今回、学力調査の結果においても特に顕著な成果を上げている学校や教育委員会の取組を、一部、紹介することとしました。各事例の提供者からは、全て連絡先を載せることの快諾をいただいておりますので、「これって何だろう？」「どうやってやったんだろう？」など、さらに具体的に聞きたいことがあれば、どんどん問い合わせをし、良い実践を共有し合うようお願いいたします。こうした「教え合い・学び合い」を通して、本県全体の教育の質的向上が図られていくことを願っています。

学校の取組例

～ 自己肯定感の向上を基盤とした学力向上 ～ 【鹿児島市立紫原小学校】

ポイント

一人一人が自分の良さや可能性を実感し、ありのままの自分を認めたり、他者の良さを認めたりしながら、解決方法を自分で決定し、主体的・協働的に問題解決を行うことで、高め合う子供を育成しています。

○ 学校の概要

児童数:599人 学級数:28学級 教員数:38人

○ 特色ある取組

自己肯定感を高めるために、「学習に参加する。」「自己決定する。」「意見を尊重する。」「自己の変容を実感する。」の4視点を取り入れて、授業づくりを行っています。

(次ページ参考資料1参照)



自己肯定感に着目して、授業においても自分の良さや可能性を実感したり、他者の良さを認めたりできる授業づくりに取り組んでいます。

問合せ先:099-251-1323



コラム 非認知能力を鍛える方法 ～自制心～

認知能力は短期的な影響しかもたらさないにも関わらず、非認知能力は長期的に大きな影響をもたらすことは、**考察①**でも述べたとおりです。このことを踏まえ「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、非認知能力に焦点を当てて取り組んでいる学校もあることと思います。

では、非認知能力を鍛えて伸ばすにはどうすれば良いのでしょうか。

中室(2015)は次のように述べています。「社会に出てからも重要な非認知能力の一つである自制心は、筋肉のように鍛えると良いと言われています。筋肉を鍛えるときに重要なことは、継続と反復です。腹筋や腕立て伏せのように、自制心も、何かを繰り返し継続的に行うことで向上します。たとえば、先生に『背筋を伸ばせ』と言われ続けて、それを忠実に実行した学生は成績に向上がみられたことを報告している研究があります。もちろん、背筋を伸ばしたことが直接、成績に影響を与えたわけではありません。『背筋を伸ばす』のような意識しないとしばらくのことを継続的行ったことで、学生の自制心が鍛えられ、成績にも良い影響を及ぼしたのでしょう。

また、心理学の分野でも、『細かく計画を立て、記録し、達成度を自分で管理する』ことが自制心を鍛えるのに有効であると多数の研究で報告されています。』

授業づくり

-Creating Lessons-

実践単元及びねらい

第6学年 国語科・総合的な学習の時間

単元名 「表紙の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」

関連単元 「おいでよ鹿児島! Made in Murasakibaru」

(総合的な学習の時間)

ねらい

- 筆者のものの見方・考え方や表現の工夫を捉えることができる。
- 筆者のものの見方・考え方や表現の工夫を、自身の表現に生かすことができる。
- 相手の考えを尊重しながら、自分の考えを深めることができる。
- 学習の成果や方法、過程を振り返り、自己の反省を実感することができる。

4 視点に基づいた授業研究

-Practice実践-

- 単元 -

- 1 単位時間 -

学習に参加する
自己決定する
意見を尊重する
自己の変容を実感する

魅力的な課題設定

学習したことを生かして、鹿児島よきを、大阪の同級生に伝える!



ゴールの自己決定



必然性のある課題設定

前の授業の課題を解決するために、今日は、追加調査をしてから友達に確認するような計画を立てて取り組もう!



自己の学びのデザイン



観点を意識した対話

比較 具体 選択 分類 統合 関連 帰納 演繹 等

対話の約束事



聞き方名人



話し方名人

5つの観点による振り返りと教師からの価値付け

成果
知識・技能

追究の仕方・方法
資質・能力

他者との関わり
協働性

学習のつながり
知的好奇心・意欲

質問・疑問・要望
授業改善の視点

学習計画は少し変更したけど、友達からのアドバイスを生かして昨日までの課題を解決することができた! 次の時間は、もう少し追加調査をしたい!



振り返りへの教師からの価値付け



全職員参加型授業研究

それぞれがプレゼンする授業研究

- やらされる研修ではなく、主体的に取り組む研修 -
4 視点を基に、それぞれが目指す子供像の具現化を目指し、様々な授業スタイルを提案する、自由度をもった検証スタイル

一人1授業

年間一人1つの授業を公開し、指導力の向上に努める。
※ 専科含む全教員

段階的な検証

1年を3つのPhase (フェーズ) に分け、段階的に研究テーマについて検証を進めていく。

リレー検証

学年で連続する単位時間を参観し合い、単元構成や単位時間のつながりを踏まえ、検証する。

ICT活用

指導案作成: Googleスライド
授業検証: Google Jamboard
Google Forms

～ デジタル端末を活用した予習型授業 ～ 【鹿児島市立桜峰小学校】

ポイント

教師は、授業の終末で翌日の授業の導入を行い、児童は、自宅に持ち帰ったデジタル端末で予習課題の解決を行います。学校での授業は、課題解決の成果を発表し合う「展開」から始まり、学習のまとめ「終末」、「習熟の過程」を経て翌日の授業の導入で終わります。

○ 学校の概要

児童数:27人 学級数:4学級 教員数:7人

○ 特色ある取組

従来の学校だけで行う指導過程「導入」「展開」「終末」を、家庭での「予習」を含めた指導過程「予習」「展開」「習熟」「導入」に再編成しています。

そのために、学びへの探究心が授業と授業、学校と家庭とでつながっていきます。

<予習型授業の特長>

- ・ 指導過程を再編成し、新たに「習熟の過程」を位置付けています。
- ・ 「習熟の過程」では、個人の目的に応じてデジタルドリルを活用するため、学びの個別最適化が行われます。
- ・ 授業の終末で翌日の授業の導入を行うため、家庭での予習や、課題解決への意欲が継続されます。



予習で考えたことを基に、仲間や教師と課題を解決していこうとする児童の姿



反転授業を取り入れ、児童の主体性を大切にされた学びが行われています。家庭では個別最適に、授業では協働的な学びを中心に行っています。

問合せ先:099-293-2005

～ 学びの変容の振り返りと見届け ～ 【錦江町立田代中学校】

ポイント

子供が学びを多面的に振り返る場面を全教科で行うことで、自身の学びの変容を自覚し、自らの学びを調整しながら学習を進めています。

○ 学校の概要

生徒数:38人 学級数:3学級 教員数:10人

○ 特色ある取組

全教科で次の4視点で振り返りを行っています。

- 1 理解・内容・・・ 何が分かったか、どんなことを考えたか。
- 2 方法・活用・・・ 何ができるようになったのか、学んだことを何に生かせるようになったのか。
- 3 納得・・・ 他者の考えやなるほどと思ったことに触れ、自分の考えがどのように変わったのか。
- 4 追究(疑問)・・・ 疑問に思ったことやさらに知りたいことは何か。

子供が学びの過程を振り返り、自覚することに加え、教師が見届けを充実させることで教師の授業づくりの振り返りにもなり、授業改善につながっています。



<振り返り> ①理解・内容 ②方法・活用 ③納得 ④追究(疑問)
 【①③】
 今回は、EUの経済とこれからについて学んだ。私は、今の不安定な状態で拡大を進めるのはよくないと思っていたが、〇〇さんの「拡大を進め、ヨーロッパを一つにして平和にする。」という意見を聞いて、なるほどと思った。ほかの人の意見を聞いて、より多くの面から考えることができるようになった。

「振り返り」の内容

単なる感想ではなく、全教科で視点を明確にして、振り返りの質を高めることで、自らの学びを調整する力を育成しています。



問合せ先:0994-25-2006

～ 子供の学びの姿を基にした校内研修 ～

【薩摩川内市立川内南中学校】

ポイント

教科の枠を越えて子供の学びの姿(事実)を基に授業研究を行うことを通して、効果的な授業づくりにつながる校内研修を行っています。

○ 学校の概要

児童数:561人 学級数:19学級 教員数:39人

○ 特色ある取組

先のコラムで紹介したコアスクールプロジェクトの「コアスクール」として校内研修の充実を図っています。

子供の学びの姿を見とり、その事実から分かることを軸に協議を行うため、教科の枠を越えた活発な協議が繰り返されています。また、育成指標を基にグループ編成を行ったり、ファシリテーターの育成を意識したりすることで、多様な意見が交わされています。

この研修を通して、学習者主体の授業を職員が意識するようになっていくとともに、職員同士の職能集団としての同僚性が高まり、学年部や校務分掌組織においてもチームで取り組む姿が見られ、学校や学年が組織体として躍動しています。



教師が子供の学びの姿を見とり、その解釈について話し合う様子



子供の学びの姿(事実)に着目した授業研究のため、教科の枠を越えて協議が活発に行われ、学習者主体の授業改善につながっていきます。

問合せ先:0996-23-4602

～ サーバント型リーダーシップ ～

【薩摩川内市立隈之城小学校】

ポイント

サーバント型(支援型)リーダーの働き掛けで職員の自己肯定感や有用感が高まり、職員集団が主体的に授業改善や研修等に取り組んでいます。

○ 学校の概要

児童数:719人 学級数:30学級 教員数:40人

○ 特色ある取組

校長自ら積極的に職員に声掛けを行い、職員とのつながりをつくることはもちろん、職員の努力した過程を時宜を得て具体的に称賛し、職員の自己肯定感や有用感を高めることを大切にしています。

また、年度当初から、職員の語らう場づくりや協力して作業を行う場を多く設定し、職員の良い関係性を築くようにしています。さらに、若い職員を学年部に均等配置し、学年部で育てる環境づくりを行ったり、ベテラン職員やミドルリーダーの活躍の場を数多く設けたりしました。

このように職員の友好的な同僚性を高めた上で、研修主任を中心とした校内研修の体制づくりを行い、一人一研究授業を柱とした授業改善の取組を通して、職能集団としての職員の意識改革と実践意欲の向上に向けた取組を続けています。

児童も教師も頑張ってます！(職員ブログ)

前年、職員の間で多くの研修会に、教師が中心で進める授業が中心でしたが、今年度は、児童も一緒に取り組む授業が中心です。児童も教師も頑張ってます！(職員ブログ)



子供の頑張りとともに職員の頑張りも保護者や地域へ伝えていくブログ



児童生徒のみならず、職員の自己肯定感を高めることも重要です。職員の自己肯定感を高め、職員の友好的な関係が構築されたことに加えて、職員一人一人の良さを発揮させて、お互いに高め合う職能集団が組織され、その同僚性を発揮して職員が主体的に学校改善に取り組んでいます。

問合せ先:0996-23-2604

～ 学校における児童生徒の実態把握や
授業改善に向けた取組への支援 ～ 【肝付町教育委員会】

ポイント

全国学力・学習状況調査の結果や国立教育政策研究所が作成した資料などを積極的に活用することにより、学校における児童生徒の実態把握や授業改善に向けた取組を支援しています。

○ 特色ある取組

<学校との関わり>

- ・ 全教職員を対象に、オンラインによる研修講座を月に1回実施しています。各学校では校内研修に位置付けるなどの工夫をして参加しています。
- ・ 各学校の教頭と研修主任等で構成する学力向上対策委員会を定期的に開催し、単元ごとに「指導と評価の計画」を作成することの重要性を再認識させています。

<全国学力・学習状況調査に関する取組>

- ・ 町が作成した分析シートに基づき、学力向上対策委員会や各学校で全国学力・学習状況調査の結果を分析し、国立教育政策研究所の報告書を参考に誤答傾向から児童生徒の『つまずき』を把握します。
- ・ 把握した『つまずき』が教員の指導方法に起因する場合は、国立教育政策研究所が作成した「授業アイデア例」などを参考に各学校の状況に応じて授業改善の具体策を作成し授業改善を進めさせています。基礎学力の定着に起因する場合は、演習問題を活用した学習を単位時間内に位置付けるなど、確実に基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るよう指導しています。
- ・ また、全国学力・学習状況調査の実施教科ごとに各学校の教科主任を集め、国立教育政策研究所が作成した「解説動画」を視聴したり、授業改善の必要性や改善案などについて意見交換する場を設けたりしています。



行政が積極的に学校に関与している姿勢が見受けられます。行政として「当たり前前」の事を当たり前にする。「各学校の実態に即して継続的に丁寧に指導、支援をする。」ことの重要性を実感します。

問合せ先:0994-65-8425



コラム 一斉一律の宿題からの脱却 個別最適な自主学習へ 【知名町教育委員会】

教育委員会が一律一斉の画一的な宿題からの脱却を図るべく「家庭学習のすすめ」のパンフレットを作成し、小、中学校全ての保護者に配布し、自主学習の取組を推進しています。

児童生徒が自身の学習状況等を振り返り、自ら学習課題を決定する自主学習ノート(自学ノート)の取組など、家庭と連携して、学びに向かう力の育成を推進しています。初めは戸惑っていた児童生徒も友達の取組状況などを参考に、少しずつ充実してきました。

前述の、全国学力・学習状況調査で継続して高い正答率を維持しているA県の特徴的な取組としても紹介されることも多いです。(次ページ参考資料2参照)

問合せ先:(代)0997-84-3158

Point2

宿題から自主学習へ 広げましょう！

「家庭学習＝宿題」ではありません！

学校から与えられた宿題だけをしては、「自分で学ぶ力」は育ちません。自分の弱点や課題を見付け、克服のために取り組んだり、自分の興味・関心があることを調べたりすることで身に付きます。学校で「何を学んだか」、「何を知っているか」ということだけでなく、「どのように学ぶか」という学び方を身に付けることは、これからの時代を生きる子どもたちにとって必要となる力です。



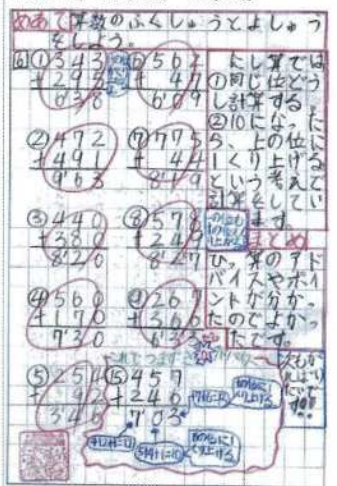
自主学習ノート(自学ノート)で学ぶ力をつけましょう

自主学習ノート（通称「自学ノート」）は、子どもが毎日、自分で学習する内容を決めて取り組む家庭学習用ノートです。

自主学習ノート（自学ノート）のねらい

低学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や計算の力を付ける。 その日学習したことを復習する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校で学習した内容を自分のものにする。 自分で答え合わせをし、間違いを見付ける力や分からないことを調べる力を付ける。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きや計算を確実にできるようにする。 間違っただ箇所を復習し、同じ間違いをしないようにする。 疑問に思ったことや詳しく知りたいことを探究・追究する力を付ける。

10月14日 16時30分～16時50分



自学ノート参考例

<5つの約束>

- ①日付を書く
- ②取り組む内容を書く
例)計算ドリルの○番、教科書に出てくる漢字など
- ③取り組んだ時刻を書く
例)16時00～16時30分、17時30分から30分間など
- ④「めあて」を書く
例)10分で10問とけるようになる。など
- ⑤「振り返り」を書く
めあてに対して、自分がどこまで達成できたと思うかを書く。

取組例

- 授業で習ったところを復習する。
- 漢字の成り立ちについて調べる。
- 歴史上の人物について調べる。
- 新聞を読んで興味をもった記事の感想を書く。
- 慣用語や重要語句をまとめる。
- ドリルや発展問題に取り組む。

～ 地域や保護者とねらいを共有した探究的な学び ～ 【与論町教育委員会】

ポイント

町内全ての小・中学校で、海洋教育科「ゆんぬ学」を柱とした、探究的な学びに取り組むとともに、その学び方の良さを、各教科の実践にも生かしています。

○ 特色ある取組

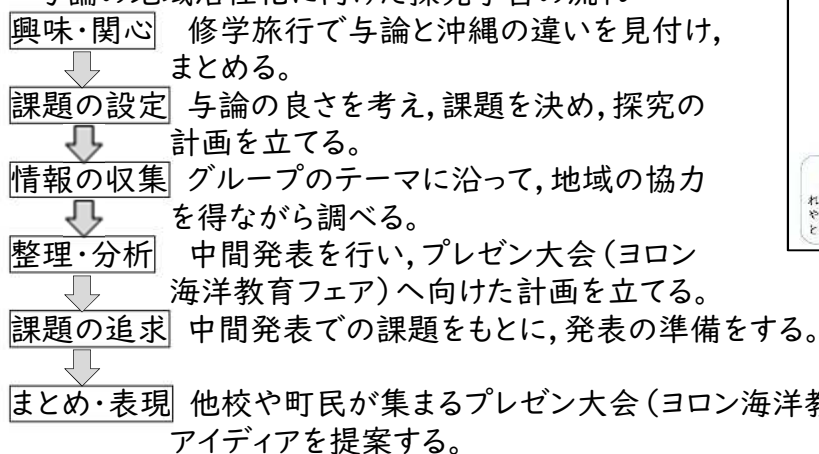
与論の子供たちに「島だち後にも自分の夢や目標を追い求め続け、新しい社会でよりよく生きていくための資質・能力」を一体的に育むことをねらいとして、地域や保護者とも共有した上で、令和4年度から全ての小・中学校で海洋教育科「ゆんぬ学」（「ゆんぬ」は与論を意味する。）を新設し取り組んでいます。

「ゆんぬ学」は海そのものや、海に守られた自然や文化、海と共に生きる地域の人々を素材とした探究的な学びで、小学3年生から中学3年生まですべての学年で行われています。

<茶花小学校の取組例>

6年生：ヨロンのタカラ探し!! (54時間)

～与論の地域活性化に向けた探究学習の流れ～



町全体で共有しているねらい（QRコードで誰でも閲覧可能）



町全体で目指す資質・能力を明確にして、地域や保護者とねらいを共有した上で、探究的な学びを進めています。本県には、探究的な学びのための学習素材が多くあります。探究的な学びの良さを各教科の実践に生かし、また、各教科で学んだことを探究的な学びで生かすという好循環が生まれていくといいですね。



問合せ先：(代)0997-97-3111



コラム 読解力（リーディングスキル）の育成 【西之表市教育委員会】

全国学力・学習状況調査の調査問題を見ると、出題意図を的確に読み取る力が問われている問題が出題されていますが、子供たちが問題を解く力が不足しているのか、そもそも問題文を読めていないのか、判断に迷うところがあります。そこで、西之表市では市内全ての小中学校で文章に書かれている意味を正確に捉える力（基礎的な読む力）を測定・診断するリーディングスキルテストを実施し、その結果を基に、子供たち一人一人の「読解力」の状況を把握し、その分析を基に読解力向上のための授業に取り組んでいます。

また、リーディングスキルテストを開発した新井紀子教授（国立情報学研究所 センター長）を招いて、教職員を対象にモデル授業を含めた研究会を実施しています。

自学自習ができるようになるためにも、しっかり教科書を読み、教科書と向き合える子供の育成を市全体で行っています。

問合せ先：(代)0997-22-1111

分析について

各学校では、職員研修等で全国学力・学習状況調査の結果を分析していることと思いますが、分析を行う際に、何を目的として、どのように分析を行っているのでしょうか。

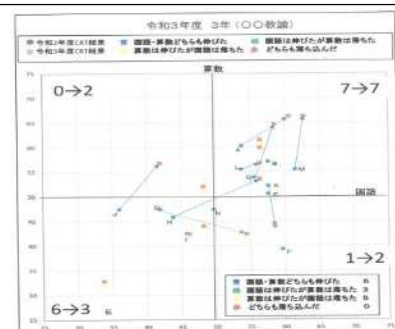
全国学力・学習状況調査は、授業で育成する資質・能力がどの程度身に付いているかを確認する良質な調査です。当該調査の分析を充実させることで、実態を正確に捉え、授業改善をはじめとする教育活動の改善に効果的に反映させることができます。

[表9] 令和4年度「取組調査から」 小学校 486校、中学校 207校（複数回答）

分析方法等	小学校	中学校
文部科学省（一次資料）のデータを分析した。	91.2%	89.9%
経年、学級間や他調査を生かした追跡調査などを作成（二次資料）して分析した。	49.2%	50.2%
分析結果から2学期以降取り組むべき具体的な対応策や目標を設定した。	95.1%	91.3%

～二次資料の具体～

- ・ 児童個々の課題の把握と個別最適な学ばせ方
- ・ 教育事務所が刊行した資料で紹介された内容（算数、プログラミング）
- ・ NRTの分析結果との比較・分析（全体・個人）
- ・ 個に応じた対応の在り方（アンダーアチーバーへの対応）
- ・ 児童の回答傾向と課題 など



児童一人一人の経年変化をグラフ化した二次資料

[参考] 与論町立与論小学校の取組

問合せ先:0997-97-2241 ←

上記調査から、多くの学校で、一次資料を分析し、今後の取り組むべき具体的な対応策や目標を設定しています。一方で、二次資料を作成し、分析している学校は、小学校、中学校共に半分程度しかありません。

大切なのは、学校の実態に応じてどのようなデータが必要かという視点です。そのためには、着目する調査結果を抽出したり、他の調査結果との関係を比較したりするなど二次資料を作成すると、より課題が明確になり、改善策も立てやすくなります。調査を受けたり、良い成績を残したりすること自体が目的化してはならず、調査の本旨を見つめ直し、しっかりと分析・改善につなげていくようお願いします。分析の際は、行政と積極的な連携を図ることも考えられます。

基本的な分析方法

ステップ1:結果の見える化

基礎データを活用して観点を明確にした二次データを作成して視覚化し、全職員で共有する。

ステップ2:データの関係性を導く

視覚化したデータを職員それぞれで読み込み、データ（根拠）から分かることやそれぞれの関係性など気付いたことを出し合い、意見交換を行う。

ステップ3:原因の追究、指導の在り方の検討

意見交換から出された課題等を分類し、その原因を話し合う、また、その原因を解決するための具体的な指導を話し合う。